

月刊俳誌

雲の峰

2008.11 通巻209号

雲の峰

平成8年11月5日第三種郵便物認可 毎号1000円（税込）
平成20年11月1日発行 通巻209号



棧 敷 席

朝 妻 力

穠田や獅子担ぎくる若頭
風の夜の味噌汁に揉む鷹の爪
秋晴を来る総代の黒羽織
浦祭の姓刺繍せる腕守り
秋晴や輿打ち落とす地の響き
浦祭のはや五台目の救急車
秋天にもつとも近き棧敷席
千切れたる四手を拾うて秋の暮
千秋楽と言ふべしげふの入り日時
腰に鉈下げて翁や鴟日和
ウインドに足駄爪皮冬近し
客寄せを仰せつかりて文化祭
句の材の甘藷に鋏の傷白し
延段の石目が黒し鴟日和
実の色に染まる伊丹の柿紅葉

(灘けんか祭七句)

(八尾町二句)

(生駒フェスタ二句)

